我が国における工学教育の質保証の現状と将来

Present and Future in Quality Assurance of Engineering Education in Japan

青木 恭介^{※1}

Kyosuke AOKI

野澤 庸則^{※2}

Tsunenori NOZAWA

The quality of engineering education in our country should be assured by the self-assessment of the institution that conducts education. Recent evaluation and/or accreditation are intended to assist and promote such achievement. The certified evaluation and accreditation for colleges of technology and the audit by the Japan Accreditation Board for Engineering Education (JABEE) have been carried out on the engineering education. In this article we will discuss the ways of accreditation of both systems and try to consider future for the quality assurance of the engineering education in Japan.

Keywords : Engineering Education, Quality Assurance, Certified Evaluation and Accreditation, Accreditation of Engineering Education, College of Technology

キーワード：工学教育，質保証，認証評価，工学教育評価，高等専門学校

1. はじめに

大学，短期大学，高等専門学校等の高等教育機関に対する，文部科学大臣によって認証された評価機関による第三者評価制度（いわゆる認証評価）は，平成16年度から導入された学校教育法第109条第2項に基づく評価である。その第1項には，「大学は，その教育研究水準の向上に資するため，教育研究等の状況について自ら点検及び評価を行い，その結果を公表するものとする。」と定められている。このことから，第2項の認証評価の目的も，教育研究水準の向上に資するものと理解される。すなわち，我が国における工学教育を含む高等教育の質保証は，各高等教育機関の常日頃の自己点検・評価に基づく改善努力によって第一義的に維持されるべきものであり，認証評価制度はこの営みを支援促進するものと位置付けられている^{1), 2)}。

各認証評価機関によって行われる第三者評価の実施方法については，上述の学校教育法第109条第4項において，各認証評価機関が評価基準を定めて，それに従って行うものとされている。大学，短期大学の認証評価については複数の評価機関が存在し，評価を実施しているが，もっぱら工学教育を担う高等専門学校については，現在大学評価・学位授与機構が唯一の評価機関である。そこで，本稿では大学評価・学位授与機構が行う高等専門学校の機関別認証評価の状況を考察することにより，工学教育の質評価による質保証の現状と今

後の課題をふくめた将来について考えることとしたい。また，日本技術者教育認定機構（JABEE）による工学教育プログラムの認定評価が工学教育の質保証に大きな役割を果たしていることから，そのことについても触れ，ここでは，認証評価との関連において考察したい。

さて，機関別認証評価は，それぞれの認証評価機関が定める評価基準を機関（高等専門学校全体）として満たしているかどうかの評価を通して，それぞれの認証評価機関が定める目的を達成することを目指している。大学評価・学位授与機構では機関別認証評価の目的を，(1)機構が定める高等専門学校評価基準に基づいて，高等専門学校を定期的に評価することにより，高等専門学校の教育研究活動等の質を保証すること，(2)評価結果を各高等専門学校にフィードバックすることにより，各高等専門学校の教育研究活動等の改善に役立てること。そして，(3)高等専門学校の教育研究活動等の状況を明らかにし，それを社会に示すことにより，公共的な機関として高等専門学校が設置・運営されていることについて，広く国民の理解と支持が得られるように支援・促進していくことと定めている²⁾。

基準に係る評価内容は1) 教育研究上の基本組織，2) 教員組織，3) 教育課程，4) 施設及び設備，5) 事務組織，6) 財務に関するもののほか，教育研究活動等に関することとする省令による定めがあり³⁾，これを満たす評価基準を有し，それに従って適確に評価を行うことができる評価機関であることが，文部科学大臣が評価機関に認証を与える条件となっている。

大学評価・学位授与機構の実施する機関別認証評価基準は11の基準から構成されている。基準1の高等専

平成20年9月8日受付

※1 宮城工業高等専門学校

※2 大学評価・学位授与機構

門学校の目的から始まり、以下、基準2：教育組織(実施体制)、基準3：教員及び教育支援者、基準4：学生の受入、基準5：教育内容及び方法、基準6：教育の成果、基準7：学生支援等、基準8：施設・設備、基準9：教育の質の向上及び改善のためのシステム、基準10：財務、基準11：管理運営となっている⁴⁾。

これらの基準には分析・評価するための視点が基本的な観点として設定されている。それらのうち、工学教育の質保証という見方で重要な基準ならびに基本的な観点の内容、評価方法等について考察したい。

2. 認証評価

大学評価・学位授与機構が行う高等専門学校機関別認証評価における教育研究活動等の質保証及び質向上評価は、高等専門学校で行われている準学士課程の教育と専攻科課程の教育を対象に、高等専門学校機関別認証評価の基本方針「教育活動を中心とした評価」「各高等専門学校の個性の伸長に資する評価」を受けて、次の様な基本的な構成の下で行われている。

まず、教育研究活動の質保証については、各高等専門学校の個性の伸長に資するよう、各高等専門学校が掲げる目的に照らし、その教育活動を中心として以下の4点の評価をすることにより、その質を保証する評価の枠組みとしている。

- (1) 設定されている目的の質評価
- (2) 目的(特に達成目標)の達成状況による質評価
- (3) 目的を達成する恒常的仕組みを持つ教育活動の質評価
- (4) 教育活動を支える財務状況・管理運営体制の面からの質評価

次に、教育研究活動の質向上評価は、評価の基本方針を踏まえ、高等専門学校自らがその状況を点検・評価しているか、その点検・評価の結果を受けて、改善を図るシステム(仕組み)の下に改善が図られているか(改善を図るシステムが機能しているか)ということについて、以下の3点の状況について評価することとしている。

- (1) 目的を達成する恒常的仕組みを持つ教育研究活動の状況
- (2) 教育の成果である、教育目標の達成状況
- (3) 教育活動を支える財務状況及び管理運営状況

2.1 設定されている目的の質評価

高等専門学校のそれぞれの個性により、その「目的」の表し方は多様である。大学評価・学位授与機構が行う認証評価では、「目的」とは、「高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果など」として位置づけている。この中で、使命や教育の基本方針に相当する内容については、各高等専門学校の個性溢れる教育の在り方に係わるとこ

ろであるので、これを十分に尊重して評価に取り組むべきものとしている。また、養成しようとする人材像、達成しようとしている基本的な成果に相当する内容についても、各高等専門学校で、どのような学生を育成しようとしているかを表すものであり、学校としての特色が現れるところである。どのような学生を育成しようとしているのかについては、教育の成果に直接関連する内容であることから、「基準6 教育の成果」において、「高等専門学校の教育の目的において、教育活動によって学生がどのような知識、技術、態度を身に付け、どのような人材となることを意図しているのか」という点は、極めて重要です。」と位置づけている。

そこで、使命や教育の基本方針の下に、「学生がどのような知識、技術、態度を身に付け、どのような人材となることを意図しているのか。」を表す内容について、学校教育法第115条に規定された高等専門学校一般に求められる「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する。」という目的に照らして、適切な内容・水準にあることを、ピア・レビューアの視点で評価し、保証している。

これら目的の質評価のための基準・観点として、基準1の高等専門学校の目的の中に、基本的な観点1-1-①として「目的として、高等専門学校の使命、教育研究活動を実施する上での基本方針、及び、養成しようとする人材像を含めた、達成しようとしている基本的な成果等が明確に定められているか。」が設定され、また、基準6の教育の成果の中に、基本的な観点6-1-①として「高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。」が設定されている。

2.2 目的の達成状況による質評価

目的に掲げた学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力、養成しようとしている人材像に照らして、教育の成果や効果が上がっていることを検証・評価している。即ち、学生が卒業(修了)時に身に付ける学力や資質・能力の達成状況の評価を通して、教育活動の成果の面から教育の質を評価し保証している。

教育の成果については、身に付けた知識など卒業(修了)時に確認できるものと、資質や能力などの中には、卒業後に年月を経て発揮され確認できるものがあることから、卒業(修了)時点での学生の達成状況による検証及び卒業後の状況把握による検証の2面から確認することとしている。そのため、卒業(修了)時の目的の達成状況のほかに、卒業(修了)生や進路先の関係者から卒業(修了)生が在学時に身に付けた学力や資質・能力に関する意見を聴取し、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっていることを検証・評価している。また、達成状況の把握方法については、

単位取得状況など教育を実施した高等専門学校自身による達成状況の把握・評価、教育を受けた学生自身による達成度評価、教育を受けた学生を受け入れた進路先関係者の意見の聴取、という3つの側面から行い、教育の成果が上がっていることを確認し、その質を保証することとしている。

これら目的の達成状況による質評価のための基準として、基準6教育の成果の中に基本的な観点として、以下の5つが設定されている。6-1-①「高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、及び、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。」、6-1-②「各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位取得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。」、6-1-③「教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。」、6-1-④「学生が行う達成度評価等から判断して、学校の意図する教育の成果や効果が上がっているか。」、6-1-⑤「卒業（修了）生や進路先の関係者から、卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。」である。

2.3 目的を達成する恒常的仕組みを持つ教育活動の質評価

教育活動において、目的の達成が、ある時点でたまたまうまくいったというのではなく、目的を達成するような仕組みを持った教育活動が行われていること、そして、その成果として目的が達成される状況にあることを検証・評価し教育活動の質を保証している。

そのために、まず、目的を達成すべく教育課程が編成されていることについて、目的に照らして授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されていることを検証・評価している。次に、その教育課程の実施に必要な教員及び教育支援者が配置されていることについて、高等専門学校において教育を担当するに相応しい教育上の能力を持った教員の採用・昇格が適切になされていること、及び、定期的に教員評価がなされていることを合わせて、検証・評価している。更に、教育を実施するのに相応しい教育環境として施設・設備が適切に整備され、実際の授業の内容が教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっていることを検証・評価している。

また、目的を達成すべく各授業において修得すべき内容が明確になっており、その修得状況の確認の基に成績評価・単位認定を適切に行う仕組みとなっていることを検証・評価している。そして、実際の成績評価・単位認定が適正に行われていることを検証・評価している。

学生の学習活動に対する学習支援状況と共に、高等専門学校の特色でもある、担任制度等による教育支援状況、特別活動等による人間の素養の涵養がなされているかどうかという点も併せて検証・評価している。

以上の教育活動状況を検証・評価することにより、目的を達成する恒常的仕組みを持つ教育活動が実施されていることについて、その教育の質を評価・保証している。これらのための基本的な観点として、以下が設定されている。

目的を達成すべく教育課程が編成されているかについては、基準5教育内容及び方法の中に、基本的な観点5-1-①「教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。」、基本的な観点5-1-②「学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。」が設定されている。

そして、教員の状況に関しては、基準3教員及び教育支援者の中に、基本的な観点3-1-②「教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。」、基本的な観点3-2-①「教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。」、基本的な観点3-2-②「教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。」が設定されている。

また、適切な施設・設備の整備については、基準8施設・設備の中に、基本的な観点8-1-①「学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。」が設定されている。

さらに、授業の適切性については、基準5の中に、基本的な観点5-2-②「教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。」、基本的な観点5-1-①「教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。」、基本的な観点5-2-①「教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数教育、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）」、基本的な観点5-2-③「創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。」、また、基準2の中に、基本的な観点2-2-②「一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。」が設定されている。

成績評価・単位認定などについては、基準5の中に、基本的な観点5-3-①「成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。」が設定されている。

学習支援、人間の素養の涵養については、基準7学生支援等の中に、基本的な観点7-1-①「学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。」、また、基準5の中に、基本的な観点5-4-①「教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がされるよう配慮されているか。」、基本的な観点5-4-②「教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるように配慮されているか。」が設定されている。

2.4 教育活動を支える財務状況・管理運営体制の面からの質評価

高等専門学校が、教育研究活動を組織として将来にわたって適切かつ安定的に遂行するために必要な財務基盤を有していること、及び、管理運営組織が、目的の達成に向けた教育等の活動を支援・促進させ、滞りなく効果的に運営されていることを検証・評価し、その財務・管理運営の面から教育の質を保証している。

財務基盤については、教育研究活動を安定して遂行できる資産の保有、経常的収入の確保とともに、収支に係わる計画の基に、目的を達成するために適切な資源配分がなされていることを評価している。また、管

理運営については、目的の達成に向けて効果的な意志決定がなされる態勢となっていることを中心に評価している。

これらに関連しては、基準10の財務の中に、基本的な観点10-1-①「学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大でないか。」、基本的な観点10-1-②「学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。」、基本的な観点10-2-①「学校の目的を達成するための活動の財務上の基盤として、適切な収支に係わる計画等が策定され、関係者に明示されているか。」、基本的な観点10-2-②「学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対して、適切な資源配分がなされているか。」が、そして、基準11管理・運営の中に、基本的な観点11-1-①「学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意志決定が行える態勢となっているか。」、基本的な観点11-1-②「管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。」が設定されている。

2.5 教育研究活動の質向上評価

先にも述べたように、教育研究活動の質向上評価は、評価の基本方針を踏まえ、目的を達成する恒常的仕組みを持つ教育研究活動の状況、教育の成果である教育目標の達成状況、教育活動を支える財務状況及び管理運営状況について、高等専門学校自らがその状況を点検・評価しているか、その点検・評価の結果を受けて、改善を図るシステム（仕組み）の基に改善が図られているか（改善を図るシステムが機能しているか）という点で質向上評価をすることとしている。

教育研究活動の状況については、授業評価アンケート等による授業の状況把握とその改善、学生支援に関し学生の意見を聴取し改善を図る取組、教員の教育上の能力に関し教員の教育活動評価とFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動による向上等を中心に評価している。また、教育目標の達成状況については、学生による学習達成度評価、進路先の関係者からの意見の聴取を踏まえ、自己点検・評価に反映させると共に改善が図られていることを評価している。管理運営面では、外部有識者の意見を反映していること、また、自己点検・評価を実施し、改善に結びつけていることを評価している。

これらに関連して、基準9教育の成果の中に、基本的な観点9-1-②「学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行われており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。」、基本的な観点9-1-③「学外関係者（例えば、卒業（修了）生、就職

先等の関係者等が考えられる。)の意見が、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか.」, 基本的な観点9-1-④「各種の評価(例えば, 自己点検・評価, 教員の教育活動に関する評価, 学生による達成度評価等が考えられる。)の結果を教育の質の向上, 改善に結びつけられるようなシステムが整備され, 教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか.」, 基本的な観点9-1-⑤「個々の教員は, 評価結果に基づいて, それぞれの質の向上を図るとともに, 授業内容, 教材, 教授技術等の継続的改善を行っているか. また, 個々の教員の改善活動状況を, 学校として把握しているか.」, 基本的な観点9-2-①「ファカルティ・ディベロップメントについて, 組織として適切な方法で実施されているか.」, 基本的な観点9-2-②「ファカルティ・ディベロップメントが, 教育の質の向上や授業の改善に結びついているか.」が, そして, 基準11の管理・運営の中に, 基本的な観点11-3-①「自己点検・評価(や第三者評価)が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ, かつ, それらの評価結果が公表されているか.」, 基本的な観点11-3-②「評価結果がフィードバックされ, 高等専門学校の目的の達成のための改善に結びつけられるようなシステムが整備され, 有効に運営されているか.」が設定されている。

3. JABEEによる教育プログラム評価

JABEEの主要な活動は, 高等教育機関で行なわれている教育活動の品質が満足すべきレベルにあること, また, その教育成果が技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力(Minimum Requirements)の養成に成功していることを認定することとされている⁵⁾。JABEEの活動は教育機関に一定のカリキュラムや達成度を押し付けたり, 教育機関の教育レベルを調べて順位付けし公表したりするものではなく, むしろ, 各大学の個性を伸ばすことを目的としていとされている。そのため, 各教育機関に独自の教育理念と教育目標の公開を要請し, 新しい教育プログラムや教育手法の開発を促進し, 日本や世界で必要とされる多様な能力を持つ技術者の育成を支援するものとされている。このことから, JABEEは, 各高等教育機関に次のような活動を求めている。

- (1) 大学や教育プログラムは, 社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければならない。
 - (2) 教育プログラムは, 使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し, 教育活動の成果がこれらの教育目標と日本技術者教育認定制度が求める教育成果を如何に満たしているかを示さなければならない。
 - (3) 教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければならない。
- (a) 学生や就職先企業など顧客層のニーズを取り入

れる方法

- (b) 教育活動を観察して教育成果を測定し分析する方法 (Assessment)
 - (c) 教育プログラムが教育目標を達成しているか否かを判断する方法 (Evaluation)
 - (d) 効果的な自己点検・教育改善システム (組織と活動)
- (4) 入学学生の質, 教員, 設備, 大学のサポート, 財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあること。

これらの項目は, 教育機関が, 整然とした教育目標と教育戦略を持ち, 必要な水準の教育活動を維持し継続的に改善していくために, 人的資源や設備が組織的にも財政的にも充分であることを要求すると考えられている。

JABEEが実施する審査は教育プログラムの評価であり, 評価対象は4年間の教育プログラムが達成する教育成果(Educational Outcomes)で, JABEEは大学等の提示する教育目標がJABEEの要求する教育成果を含み, 国際的なMinimum Requirementsを満たす内容であることをチェックするとしている。また, 自己点検書や訪問調査から, 教育成果が教育プログラムの提示する教育目標を必要な水準で満足していることを確認するとしている。

JABEEの認定審査のもう一つの重要な観点は, 教育目標の達成を維持し教育手法を改善するため, 継続的な教育改善活動が実施されており, その仕組みが十分に機能しているかどうかという点にあるとされている。自己点検・評価活動が常に実施されており, その結果が教育プロセスの改善に反映されていなければならない。また, 教育成果は自己点検・評価のための基礎データとして用いることができ, プログラムの欠点や改善すべき点を特定でき, さらに, 教育機関は評価結果からつぎの教育サイクルで改善すべき点を決定することが必要とされている。従って, JABEEによる技術者教育プログラムの認定審査は, 主に次のような観点からなされる。

- (a) 教育活動の成果 (Educational Outcomes)
 - 教育機関が掲げる独自の目標が達成されていること
 - 基準および分野別要件が掲げる教育目標が達成されていること
- (b) 教育活動の有効性 (Educational Effectiveness)
 - 教育プロセスの有効性
 - 教育手法の有効性
- (c) 教育活動の品質 (Educational Quality)
 - 厳密な成績評価
 - 個々の学生に対するケア
 - 効果的な点検・評価・改善システム
 - 効果的な Faculty Development システム

- etc.

JABEEによる技術者教育プログラムの認定審査は、下記の項目を含む自己点検書の評価と実地審査によってなされている。

- (1) 学習・教育目標（基準および分野別要件で要求される知識・能力）
- (2) 学習・教育の量（1800時間の総学習保証時間）
- (3) 教育手段
 - 入学者選抜方法（目的・目標を達成するために必要な資質を持った学生を入学させる方法、編入生の既修得単位に対する互換性評価法）
 - 教育方法（学習・教育目標との対応、科目の位置付け、教育方法、成績の評価方法）
 - 教育組織（目標を達成するために必要な教員数、教員の質的向上を図る仕組み、教員の教育活動に関する評価法、教員のコラボレーションネットワーク組織）
- (4) 教育環境（施設・設備、財源、勉学への支援体制）
- (5) 学習・教育目標達成度の評価と証明（目標達成度の評価基準とそれに基づく評価、総合的な達成度評価、厳密な成績管理）
- (6) 教育改善（自己点検システム、教育手法や教育環境の改善活動）

4. 将来の課題

機関別認証評価制度については、実施5年目にして、中央教育審議会大学文科会認証評価特別委員会で見直しに向けた検討がなされている。そこでは、機関としての評価に如何に分野別の評価を導入するかということも課題とされていると聞く。幸い高等専門学校の認証評価においては、上述のごとく、機関別とは言え、もっぱら工学に関する教育機関であることから、教育に関しては工学分野としての評価が行われている。しかし、認証評価が全体として分野別評価の色彩が強まると、JABEEの教育プログラム評価の内容とより似たものとなる。現在でも、認証評価とJABEEの教育プログラム評価については、同じような評価を二重に受けなければならないので何とかならないかという学校側からの要望も強い。認証評価は学校教育法に基づく評価であり、それぞれの学校としての教育水準の向上に資する活動を支援・促進することが目的である。一方、JABEEの教育プログラム評価は、学校の希望に応じて、その教育プログラムの水準がJABEEの認定するある一定の水準（国際水準と考えられている）にあることを認定してもらう評価である。したがって、両者を一つにすることは不可能である。そこで、少なくとも、両者で共通に活用出来るものは活用しやすくするなどの工夫が要求される。すなわち、JABEEの教育プログラム認定評価で用いられる資料を認証評価資料として活用しやすくする工夫が考えられるべきで

ある。ただし、JABEEは学士課程としての教育プログラム評価であることから、高等専門学校については準学士課程の4年次、5年次と専攻科課程の1年次、2年次に関する教育プログラムの評価である。そのため、準学士課程1年次から3年次の評価は原則的に含まれていない。このことは念頭におかねばならない。

また、大学評価・学位授与機構の学位授与部門では、高等専門学校の卒業生に学位取得の機会を与えていることに関連して、専攻科の認定審査を行っている。この審査も高等専門学校にとっては大変な負担をとまう評価である。専攻科認定時期と認証評価の時期が異なることから両方で資料をそのまま使うことは困難ではあるが、少なくとも資料は原則的に活用出来るようになされるべきであろう。

謝 辞

ご指導ご鞭撻を賜りました大学評価・学位授与機構の諸先生、高等専門学校機関別認証評価委員会の諸先生に厚く御礼申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 川口昭彦：大学評価文化の展開 わかりやすい大学評価の技法, ぎょうせい, pp.80-91, 2006
- 2) 高等専門学校機関別認証評価実施大綱, 大学評価・学位授与機構, 平成17年3月, Webページ, http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kousen/1178446_1139.html/, 2008, 参照日：2008-8-28
- 3) 学校教育法第110条第2項に規定する基準を適用するに際して必要な細目を定める省令
- 4) 高等専門学校評価基準(機関別認証評価), 大学評価学位授与機構, 平成17年3月, Webページ, http://www.niad.ac.jp/n_hyouka/kousen/1178446_1139.html/, 2008, 参照日：2008-8-28
- 5) JABEEホームページ-日本技術者教育認定機構 Webページ, <http://www.jabee.org/OpenHomePage/q&a0204-0509.html/>, 2008, 参照日：2008-8-28

著 者 紹 介

青木 恭介

1973年3月東北大学工学部建築学科卒。
1973年4月同助手。1986年工学博士。
1992年宮城工業高等専門学校助手。1993年同助教授。1995年同教授。2004年大学評価・学位授与機構教授。2007年宮城工業高等専門学校教授。現在に至る。この間、2007年大学評価・学位授与機構客員教授
専 門：建築計画・都市計画
所属学会：建築学会、都市計画学会